

災害向け通信システムの運用形態及び共用のための提案

【運用形態】

代表的な利用シーン	災害時	平常時
利用場所	屋外(ハイプライオリティ)	屋外(ロープライオリティ)
利用期間	数日～数ヶ月間程度	常時
1日のうちの利用時間	24時間	24時間
使用周波数の変更	容易	容易

【ホワイトスペース利用システム相互間で共用するための方策】

- 無線局開設前における使用可能な周波数の確認
⇒周波数、送信電力、使用地域の制限等を管理する機関が指示⇒無線局申請
- 運用する利用日時、時間帯等による調整
⇒状況を認識し、運用を調整する機関が指示⇒運用開始
- 状況の変化(災害発生など)に応じて、管理・調整機関が二次利用の条件・プライオリティを変更できるように予め調整
- 災害向け通信システム間には符号分割で共用する
⇒干渉を軽減するために、460kHz帯幅を6MHz帯幅に拡散し、符号分割